

茨木 靖<sup>1</sup>・吉野圭哉<sup>2</sup>・中西弘樹<sup>3</sup>：オニカンラン（新称）*Canarium decumanum* Gaertnerの核の国内における漂着事例

Yasushi IBARAGI<sup>1</sup>, Keiya YOSHINO<sup>2</sup> and Hiroki NAKANISHI<sup>3</sup> : Records for drifted stones of *Canarium decumanum* Gaertner in Japan.

カンラン属 *Canarium* (カンラン科 Burseraceae) の植物は、旧熱帯に約100種が分布しており (Leenhouts 1955), 国内においても中国原産のカンラン *C. album* (Lour.) Raeusch. が、鹿児島県や沖縄県などで栽培されている (邑田 2015). 漂着例としては、海外ではオーストラリアや南太平洋での報告があり、複数種の果実の核 (硬化した内果皮) が発見されることが知られている (Smith 1990, 1992; Smith et al. 1990; Partomihardjo et al. 1993; Smith and Kinnear 1999; Velde and Velde 2006). また、国内においても、オオミカンラン *C. mehenbethune* Gaertner が石垣島から、インドカンラン *C. indicum* L. が与那国島から、それぞれ報告されている (中西 2011, 中西・坂巻 2016).

今回報告するオニカンラン *Canarium decumanum* Gaertner は、雌雄異株の大高木で、高さは50mを超え、根は板根状。東南アジアのマレーシア、インドネシア～パプアニューギニアにかけて分布する。材は、柔らかく耐久性に劣るものの、自生地では建築材や家具材として用いられることもある。また、種子が食用となるため、ジャワ島などでは栽培もされる (Leenhouts 1955).

本種については、これまでに和名がつけられた事例はないが、インターネット上を中心にジャワ語名のケナリバビ *Kenari babi* などとして紹介されることがある (全国木材チップ工業連合会ホームページ, 中川木材産業株式会社ホームページ).

国内での漂着事例としては、インターネット情報での記録があるのみで (umimame 海を旅する豆ブログ, keiyayoshino インスタグラム), 漂着地点は南西諸島である事が推測されるものの公式な記録はなく、本種の漂着に関する情報は乏しい。

本邦に漂着するオニカンランの核は、内果皮が完全に露出した状態で、硬く木質化しており、表面には多くの皺が見られる (図1～3). これらの特徴より、Gunn and Dennis (1999) の Fig. 26, 中西 (2011), 中西・坂巻 (2016) の図版および Leenhouts (1955) の記載との比較によって本種と同定した。

国内に漂着例のあるオオミカンランの核は、中西 (2011) によれば、「平滑、褐色で、長さ50-60mm、幅40-50mmで、楕円体、頂部は短く尖り、3つの小さな穴が開いている。下部先端部は、3つの凹みがある。(中略) 八重山諸島にはまれに漂着しているが、日本本土への漂着はまだ知られていない。」とされる。また、インドカンランについては、「両端が尖った紡錘形に近い三稜形をなし、長さ43-45mm、幅18-24mmで、灰褐色をしている。一方の端に3つの小さな発芽孔がある」とされる (中西・坂巻 2016).

これらの記載より、オオミカンランは内果皮の表面が平滑であることから、インドカンランは核の両端が尖った紡錘形に近い三稜形をしていることから、それぞれオニカンランとは容易に識別されることがわかる。

また、これまでに、本種の核は、石垣島で2個、西表島で1個が発見されているのみで漂着事例は少ないが、著者のひとり、吉野の観察では、同時に2個を発見している。

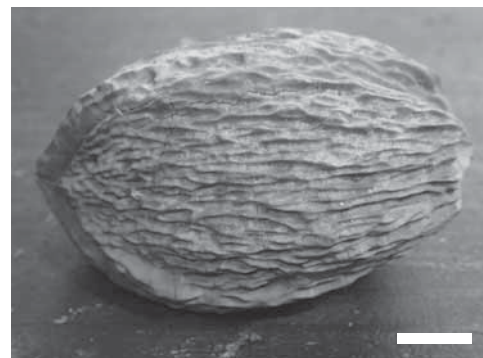


図1 オニカンランの漂着した核 (採集地：沖縄県石垣市伊野田, 吉野圭哉撮影) bar = 1 cm.

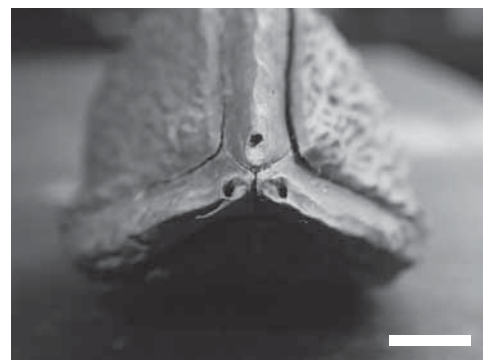


図2 頂部. 3つの小さな穴が開いている. bar = 1 cm.

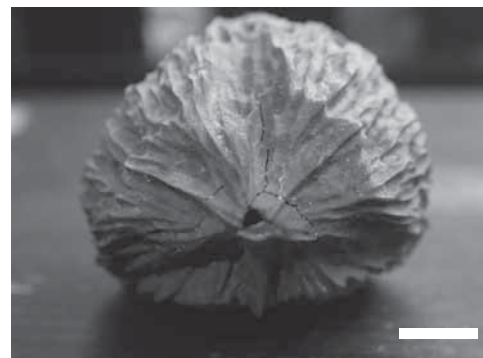


図3 下部先端部. 頂部の穴よりも、やや大きめの穴が1つ空いている. bar = 1 cm.

本種の核は、3000km以上もの距離を漂流しうることが知られており (Green 1999), 今回報告する核も、長距離を漂流してきたものと考えられる。また、Smith and Kinnear (1999) のオーストラリアでの観察によれば、カンラン属の漂着した核には、発芽可能な種子はまったく含まれていないとされ、海流散布を行う可能性は低い。しかし、Kerr (1930) によれば、タイに漂着した本属の核については、種子に発芽能力が有る可能性が指摘されている。本邦に漂着した核内に発芽能力のある種子が含まれるか否かについては不明であり、その確認は今後の課題と言える。

なお、標本は徳島県立博物館 (TKPM) および、吉野圭哉により保管されている。

**標本:** 沖縄県、八重山郡竹富町西表島ナガラ川河口 (茨木靖 1148, 22 Feb. 2001, TKPM); 石垣市石垣島伊野田 (吉野圭哉 標本番号無し, 15 Dec. 2017)

**記載:** オニカンラン (新称) *Canarium decumanum* Gaertner, Fruct. Sem. Pl. 2: 99. (1790) .

内果皮は褐色で、木質化し硬い。楕円形で、表面に皺がある。横断面は亜三角形、竜骨は分厚い稜をなし、頂部には3つの小さな穴が開いている。長さ60mm, 幅45mm。下部先端部には、1つの穴がある(計測はTKPM所蔵の標本に基づく)。

和名は、内果皮の表面がオニグルミ同様深い皺を有し、荒々しさを感じさせることに因む。

**謝辞:** とくしま海の観察会会長の濱直大氏には、本種の漂着事例に関し、貴重な情報をいただきました。ここに記してお礼申し上げます。

## 引用文献

- Green, P. T. 1999. Greta's Garbo: stranded seeds and fruits from Greta Beach, Christmas Island, Indian Ocean. *Journal of Biogeography* 26 (5): 937-946.
- Gunn, C. R. and Dennis, J. V. 1999. World guide to tropical drift seeds and fruits. Reprint edition. 240pp, Krieger publishing company, Malabar.
- keiyayoshino インスタグラム. <https://gramho.com/media/1685513330356434308> (2021年7月3日閲覧)
- Kerr, A. 1930. Fruit and seeds in the drift on Kaw Tao. *J. Saim Soc. Nat. Hist. Suppl.* 8: 103-117.
- Leenhouts, P. W. 1955. Burseraceae. *In: Van Steenis C. G. G. J. (ed.), Flora Malesiana ser.1, vol.5: 209-296.*
- 邑田 仁. 2015. APG 牧野植物図鑑 2 [フウロソウ科~セリ科]. 北隆館, 東京
- 中川木材産業株式会社ホームページ [https://wood.co.jp/\\_sns/instagram/index-tree.html](https://wood.co.jp/_sns/instagram/index-tree.html) (2021年6月15日閲覧)
- 中西弘樹. 2011. 日本における熱帯起源の漂着果実と種子の希な種. *漂着物学会誌* 9:1-5.
- 中西弘樹・坂巻 (久野) 幸子. 2016. 与那国島 (沖縄県) への熱帯起源の希な果実と種子の漂着記録. *漂着物学会誌* 14: 5-9.
- Partomihardjo, T., Mirmanto, E., Riswan, S. and Suzuki, E. 1993. Drift fruits and seeds on Anak Krakatau Beaches, Indonesia. *TROPICS* 2 (3): 143-156.
- Smith, J. 1990. Drift disseminules on Fijian beaches. *New Zealand Journal of Botany*, 28 (1): 13-20.
- Smith, J. 1992. Patterns of disseminule dispersal by drift in the southern Coral Sea. *New Zealand Journal of Botany*, 30 (1): 57-67.
- Smith, J., Heatwole, H., Jones, M., & Waterhouse, B. M. 1990. Drift disseminules on cays of the Swain Reefs, Great Barrier Reef, Australia. *Journal of biogeography* 17: 5-17.
- Smith, J. and Kinnear, J. 1999. Australian driftseeds. A compendium of seeds and fruits commonly found on Australian beaches. 123pp., University of New England Printery, Armidale.
- umimame 海を旅する豆ブログ. [umimame.blog.shinobi.jp/beachcombing](http://umimame.blog.shinobi.jp/beachcombing) (2021年6月5日閲覧)
- Velde, N. and Velde, B. 2006. Catching the drift: Impacts of oceanic drift material in the Marshall Islands. *Micronesian journal of the humanities and social sciences* 5 (1/2): 431-449.
- 全国木材チップ工業連合会ホームページ <http://zmchip.com/bogor/mag/6rose/cana.html> (2021年7月6日閲覧)

(Received Aug. 24, 2021; accepted Sept. 25, 2021)

<sup>1</sup> 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園徳島県立博物館

<sup>1</sup> Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-cho, Tokushima 770-8070, Japan

<sup>2</sup> 非公開

<sup>2</sup> Undisclosed

<sup>3</sup> 〒851-2130 長崎県西彼杵郡長与町まなび野2丁目29-4 亜熱帯植物研究所

<sup>3</sup> Subtropical Botanical Institute, Manabino 2-29-4, Nagayo - cho, Nishisonogi - gun, Nagasaki Prefecture, 851-2130, Japan